



駒林小 学校便り

令和4年度
2月号
1月31日発行

自助、共助、公助

副校長 柏木 次郎

暦の上ではもう春ですが、相変わらずの寒さが続いております。寒さに負けず校庭では子どもたちが元気に遊ぶ様子が見られます。学校生活は今年度も残り2ヶ月となりました。6年生の皆さんは4月から中学生です。1年生から5年生の皆さんも次の学年へとステップアップをしていきます。残りの期間を安心して登校できるよう今年度の学校保健委員会のテーマ「どんなところに気をつける？楽しい学校生活をおくるために」を思い出し、日頃の危機管理を大切にしていきたいと思います。

さて、3月11日には、東日本大震災が発生した日から12年となります。今でも報道等でその傷跡を見ることがあります。今、現在、新型コロナウイルス感染対策を行う中で、もし大地震が起きたらと想像するだけでも恐ろしくなります。地震などの自然災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。実際に横浜で東日本大震災レベルの大地震が起きたら、甚大な被害になります。授業中だったり、登下校の最中だったり、考え出したらきりがありませんが、いざという時の行動がとれるように日頃から備えておく必要があります。災害が発生した際に、この自助(自分の命は自分で守る)・共助(その場に居合わせた人と、共に助け合う)・公助(警察や消防、自衛隊 など公的機関の助け)それぞれがうまく機能することで、減災するといわれています。特に災害発生直後は、公助による救助の手が届かないことが予想されるため、自助と共助がとても大切です。ですから日々の避難訓練での行動をしっかり覚えておくことがとても大切です。公助の面では、学校だけでなく地域の方々の力も大切です。昨年の10月には日吉本町西町会主催の防災訓練を行いました。体育館への避難を想定し、テントや段ボールのベッドを実際に作ったり、プールの水を利用したトイレの設置をしたりするなど、もしもの時に皆さんの役に立つものをたくさん見る事ができました。学校だけでなく地域と一丸となって備えていくためにも、このような事を行っていることも知っておいて下さい。1月には予告なしの避難訓練を行いました。今後も地震を想定した訓練を予定しています。学校では避難・防災訓練や安全指導を行う中で、児童一人一人に防災を身に付けさせ、自助と共助の力を発揮してほしいと考えています。

